

市民活動及び協働に係る問題分野 キーワードまとめ

資料 2

※同じキーワードが複数の分野に記載されている場合もあります

①参加の促進（気軽に／身近に参加できる場がない）

項番	2	2	12	12	5	5
項目	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	祇園祭や地蔵盆などの文化、風習を伝える活動（京都の地蔵盆）		理念・継続・自立など難しいことを考えず、市民が主体で、市民が活動できる場が多く出来ることが重要と考える（思い付きでもそれを行動に移すことが大切）	市民の発想でその市民が活動に一步踏み出せるきっかけと1年1年の積み重ねが継続に繋がる仕組みがあると、より多くの市民活動の担い手が手を挙げ、市民活動家として成長できるのではないか。	世代交代がなかなかできず、活動中心メンバーの高齢化が進む市民活動	新型コロナウイルス感染拡大防止の期間が長く、子どもたちに活動しないように言われたり、自分自身も活動が困難だと考え活動を控えたりしているということを耳にします。
問題の立場	市民		市民		市民	
問題	地域の祭り（催し）は子供がいないと参加する機会がない	(追記) ・自治会のお祭り ・行政区やステータスに縛られずに、気軽に参加ができる市民活動がない。	身近な地域課題・社会課題を市民活動により解決するという考えが市民にも行政にも企業にも足りないのではないかと	身近な地域課題・社会課題を市民が共有し、市民活動により解決していくという手段を学校教育や自治会活動などの中に広げていき、地域の力として根付けていけないか、可能性はあると考えているが出来ていないような気がする (追記) ・身近なところで気軽に参加できる市民活動がない	ZoomやYouTubeを活用するなど、今にあった取り組みにも挑戦する意欲・体力のある人材をうまく取り込めていない。	新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動休止期間を有効に使う必要がある。各団体内での市民活動の必要性や自己啓発の良さなどについて積極的に発信して活動内容を見直し、必要でない活動をそぎ落とすなど活動を再編成することが必要。 活動が休止になったことにより、「なくても困らない」方向に進んでいる一面も考えられる。 (追記) ・新規参加者を取り込めていない（ネットができる人材）→魅力が伝えられない、やろうと思っても参加の相談機会がない。 ・既存の参加者の時代に即した育成ができていない
理想	子ども学生から高齢者まで、その地域の季節にその文化を楽しみながら学び受け継ぐ活動	(追記) ・地域の活性化につながるような市民活動 ・市内外にも誇れることのできる市民活動（文化的な伝統につながっていく）	身近な地域課題・社会課題の地域（自治会や学校など）で共有し、優先順位をつけ、実行していくための場づくり	具体的には、地域の公園の自治会や地元有志が行政と連携しての管理・運営など (追記) ・多様な主体と交流する市民活動	各団体の研修を充実させ、意欲的な人材の育成し、活動が持続できる市民活動	ZoomやYouTubeの活用の仕方と注意すべき点、使い分けの仕方世代交代がうまくいっている団体の活動紹介 (追記) ・時代に即した人材が参加・育成できるような相談環境がある市民活動

8		7		16	
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
活動の周知	素晴らしい活動をしている団体は多くあると感じるが、「その内容を知ってもらう活動」ができていないのではないかな。	圧倒的に市民活動をしている人の高齢化が進んでいる	世代間のギャップが大きい	地域の各諸団体との連携と協力し合う	
市民		市民		市民	
「知ってもらう方法」と「知ってもらう場所」が少ない	公民館等を利用したくても利用できない。また、利用しても団体の広報活動を全団体ができるわけではない。 (追記) ・気軽に「活動できる場」と「情報発信をする場」がない	若い人を市民活動に巻き込めていない	・コミュニケーションギャップ (LINEを使ってるのコミュニケーションなど) ・活動時間 (平日は難しいvs平日にも時間がある) (追記) ・時代に即した参加形態や情報発信ができていない ・ターゲットとする人材合った情報発信ができていない	幅広い年齢の人材で構成するのが良いが、若い人の意識が薄く、高齢者が多く、活動の継承が難しい	(追記) ・若い世代が参加するような取組ができていない
知ってもらいたい団体とその知りたい人を結びつけることのできる市民活動		世代に関わらず、多くの人が関わられる市民活動が出来ている		地域社会の事業として方向になるように	個々の組織では水平展開できないので地域ぐるみが必要 (追記) ・多様な主体が交流できる市民活動

②参加の促進（継続して参加するモチベーションが保てない）

項番	3	3	4	4	6	6
項目	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	活動の負担が重い（時間、作業内容など）		活動が持続しない		ある程度認知されても、それ以上踏み出そうとしない市民活動	「仕事でもないのに負の感情が生じること はしたくない」 「自分の人間関係を悪化させてまで人のためにやることはない」
問題の立場	市民活動団体		市民活動団体		市民活動団体	
問題	メンバー不足		モチベーションを持続するための、活動の魅力、ビジョンが不足・あいまい		活動を通じて得られる有形無形のギフトに気づかない	1. 歳をとればとるほど得られる「経験値」でさらに成長できる市民活動があることに気づかない 2. どの年代にも参加する意義を感じられる機会があることに気づかない (追記) ・活動を拡大することに対するメリットに気づかない
理想	メンバーが多く、負担が分担できる		活動が持続する		社会的に認知され、ミッションに共感して応援してもらえる市民活動	(追記) ・自身の活動に、積極的な取組姿勢を示す市民活動 ・今後の展開が広がっていくような市民活動

③参加の促進（情報発信する場がない）

項番	8	8	7	7	10	10
項目	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	活動の周知	素晴らしい活動をしている団体は多くあると感じるが、「その内容を知ってもらおう活動」ができていないのではないかな。	圧倒的に市民活動をしている人の高齢化が進んでいる	世代間のギャップが大きい	活動を継続させるための人材の確保が難しい市民活動	(追記) ・商店街活動で、高齢化、後継者不足といった話をよく聞く
問題の立場	市民活動団体		市民活動団体		市民活動団体	
問題	「知ってもらおう方法」と「知ってもらおう場所」が少ない	公民館等を利用したくても利用できない。また、利用しても団体の広報活動を全団体ができるわけではない。 (追記) ・気軽に「活動できる場」と「情報発信をする場」がない	若い人を市民活動に巻き込めていない	・コミュニケーションギャップ（LINEを使っのコミュニケーションなど） ・活動時間（平日は難しいvs平日にも時間がある） (追記) ・時代に即した参加形態や情報発信ができていない ・ターゲットとする人材合った情報発信ができていない	活動内容の周知不足等により会員の規模が拡大していかない	
理想	知ってもらいたい団体とその知りたい人を結びつけることのできる市民活動		世代に関わらず、多くの人が関われる市民活動が出来ている		様々な課題解決に向けた他団体並びに地域連携による市民活動	(追記) ・似たような活動同士の交流の促進

④多様な主体の交流促進

項番	1	1	2	2	27	27
項目	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	新参者が入れる雰囲気ではない (新規参加の難しさ、後から入ってきた人とスタートメンバーの関係、サークル閉鎖的、柱がない、理念がない)	地域の高齢者や代々住み続ける人、子どものいる人、母体となる事業者と関係のある人など、属性が限られている、さらにそのメンバーの利益追求の活動(なのだろう)と感じて入るモチベーションがわからない。	祇園祭や地蔵盆などの文化、風習を伝える活動(京都の地蔵盆)		インターネットの活用	コロナ禍で注目され普及し始めたオンライン会議システム、および既存のウェブサイトやSNSなどには、市民活動にかかわる大きな可能性がある。単に情報の受発信ということだけでなく、フルタイムでの勤務者や障害を持つ人、家族の事情など様々な制約により、心ならずも排除してきた人々を活動に取り込む可能性がある。
問題の立場	市民		市民		市民	
問題	地区、行政区など既存の枠組みを超え、課題テーマで参加したいと思える活動が少ない	(追記) ・自治会を想定。 ・行政区で縛られた活動発信が多く、その活動内容に焦点があてられた情報発信がない。 ・多様な主体が参加したいと思えるような情報発信ができていない	地域の祭り(催し)は子供がいないと参加する機会がない	(追記) ・自治会のお祭り ・行政区やステータスに縛られずに、気軽に参加ができる市民活動がない。	インターネット活用の事例やノウハウの提供	すでに使いこなしている団体もあるが、着手できずにいる団体は、情報不足や苦手感によりどこから手をつけていいかわからない。単発の講座などでは、タイミングやレベルが合わないなど、効果的な助けになりにくい。 (追記) ・障害等を持っている方等、マイノリティの方が簡単に参加できない
理想	エリア、年齢、特定の1事業者などのくくりではなく”課題テーマ”を前面にした活動	○○地区、○○小学校、○○商店街などでくられたコミュニティでは、入りづらい人、当事者意識がわからない人は多い。技術でつながりやすい世の中、しかもさいたま市内であればエリアや行政地区などもっとオープンな広がり可能性を取り入れては。 (追記) ・行政区に縛られずに、市内外の市民が参加したいと思うような市民活動	子ども学生から高齢者まで、その地域の季節にその文化を楽しむながら学び受け継ぐ活動	(追記) ・地域の活性化につながるような市民活動 ・市内外にも誘われることのできる市民活動(文化的な伝統につながっていく)	インターネット活用により団体を活性化し、より多くの人に届く活動を展開する	市役所から「市民活動に特化したインターネット活用相談」を提供してはどうか。団体のこれまでの活動やミッションと、直近の地域と社会の状況を照らし合わせて見直す「棚卸し」と、その内容に合わせたオンライン活用の方法についての「提案」ができれば、団体にとっては大きなサポートになり得る。 (追記) 寄附を集めることも大事である(クラウドファンディングやChange.orgなどのプラットフォームも出来てきている)。

21	21	24	24	13	13
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
行政の目的とその目的を実現する手段が目的化してしまうことにより、本来の活動理念から外れることがある	例えばある文化活動の魅力を高める事業をする場合、その事業が成功するために努力していくうちに、その事業の採算や参加者の好みに迎合して、本来の目的の実現から離れてしまうことがある。	個別課題に特化し、かつ閉鎖的なコミュニティ組織が多い。		既成概念にとらわれていないか。	自由な発想で多種多様な市民活動を期待しているが、新しいニーズに対応するものが少ない。 (追記) ・目先のことだけでを考えてしか活動をしていない。 ・特に協働
市民活動団体／行政		市民活動団体		市民活動団体	
活動に必要な自主財源不足	例えば行政の支援だけをあてにしている、支援が途切れれば、事業ができなくなるとは真の市民活動とはならない (追記) 行政の助成金頼りの市民活動団体も多い。助成金がなくなったら事業ができなくなるのは好ましくない。	個別に良いことはやっているが、他の活動とつながりながら、共に持続可能で活力ある地域づくりに取り組むといった視点が希薄。		持続性、発展性が見受けられない。	他団体との関わりが少なく、1つの団体だけで完結しているように感じる。また、単発的に終わってしまうのは残念である。 (追記) ・団体の活動が閉鎖的で、他の団体との交流ができていない、しようとしていない
異なる種類の活動団体が地域コミュニティを形成すること	現在活発な活動を実践している団体が多いが、異なる活動領域の交流、情報の流れがなく、地域内での連携が取れるシステム作りがあるとよい (行政の関与が必要) (追記) 異なる集団・団体同士で意見交流をする場が少ない。違う分野・業種でお互いが活用できると団体活動全体の活性化になる。	課題解決を目的としつつ、「解決」にこだわらない。そのプロセスで見えてきた課題を共有する関係・ネットワークづくりを重視した市民活動。	個別の課題（ニーズ）に真剣に向き合ったら、必ず別の課題が見えてきます。SDGsの取り組みも、出発点は17の目標の何か一つの項目かもしれませんが、実際に活動を始めたら他の項目も密接に関連した課題であることが見えてきます。その課題の連関への気づきを促すうえでも、地域のつながりを生み出す支援が求められているように思います。	市民活動における戦略	スタートは「好きだから」「やりたいから」であっても続けた先に見えてくる姿や方向性を具体化していく。 (追記) ・時代にあった活動を常にできるような市民活動（発展していく必要はないが、時代に合った活動をすべき）

⑤担い手育成

項番	5	5	14	14
項目	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	世代交代がなかなかできず、活動中心メンバーの高齢化が進む市民活動	新型コロナウイルス感染拡大防止の期間が長く、子どもたちに活動しないように言われたり、自分自身も活動が困難だと考え活動を控えたりしているということを耳にします。	活動をするメンバーがどんどん減っていく市民活動	1. 名ばかりのメンバーが名を連ねて、実際に行動するメンバーが減っていく 2. 参加を希望する人に自分たちのルールを強要する
問題の立場	市民活動団体		市民活動団体	
問題	ZoomやYouTubeを活用するなど、今にあった取り組みにも挑戦する意欲・体力のある人材をうまく取り込めていない。	新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動休止期間を有効に使う必要がある。各団体内の市民活動の必要性や自己啓発の良さなどについて積極的に発信して活動内容を見直し、必要でない活動をそぎ落とすなど活動を再編成することが必要。 活動が休止になったことにより、「なくても困らない」方向に進んでいる一面も考えられる。 (追記) ・新規参加者を取り込めていない（ネットができる人材）→魅力が伝えられない、やろうと思っても参加の相談機会がない。 ・既存の参加者の時代に即した育成ができていない	異質なものを嫌い、多様性を受け入れようとしにくい	1. ヒエラルキーに縛られている 2. メンバー全員が「同じ考えである必要はない」ことに気づかない (追記) ・参加回数が多い人等、固定の人の声が大きく、メンバーの考えを対等に聞きあう環境ができていない
理想	各団体の研修を充実させ、意欲的な人材の育成し、活動が持続できる市民活動	ZoomやYouTubeの活用の仕方と注意すべき点、使い分けの仕方世代交代がうまくいっている団体の活動紹介 (追記) ・時代に即した人材が参加・育成できるような相談環境がある市民活動	多様な参加者がいる市民活動	1. 多様な人材(性別・年齢・人種など) 2. 多様な参加のしかた(行動・寄付・ICTなど) 3. 多様な参加理由(自己実現・社会貢献など) (追記) ・これが1番重要 ・様々な人、参加形態であっても、対等な立場としてそれぞれ認め合い、参加できる市民活動

15	15	20	20	17	17
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
ヒエラルキーに囚われて、リーダーの思いが正義となる 市民活動		経費処理が大変	事業実施にあたって経費処理が必要になるが、不慣れな人がやらざるを得ない状態だと負担感が重く、時間がかかり、活動の阻害要因になりうる	運営の次々世代への継承	
市民活動団体		市民活動団体		市民活動団体	
柔軟な意思決定のしくみを受け入れることができない	(追記) ・多様性・柔軟性を認められない組織の仕組み	経費処理に関するサポートがない		次々世代になると、人によっては、運営に積極的に参加しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的や理念を確認する機会が少なく、お膳立てされた例会に「自分に役立ちそう」と思ったときに参加しようという参加者が増えている。 ・「目標達成には皆の持てる力を出し合って運営しなければならない」という一体感を醸成する機会が減っている。 <p>(追記) 次の世代くらいまでなら目的や思いが繋がっているが、さらに次の世代となると、その目的や思いを継続することは難しい。</p>
対話を通じて意思決定を行う 市民活動	誰か一人の意見に収束させることが意思決定ではない。対等な関係で話し合うことで集合知がもたらされ、よりよい意思決定ができる。 (追記) ・どんな人であっても、対等な立場での参加を認める手法	経費処理のための簡単なアプリがある／専門家の派遣がある		「次々世代は自分達が運営する」という意識を持った参加者が多い 市民活動	自己財源で運営することは大切ですが、社会における当該市民活動の役割を実感してもらうため、行政機関等外部との活動を企画し、設営等に関わって頂くことも必要と考えます (知っているところでは参加者の負担を考え減らしたところ、一体感を感じる機会が減ってしまったようです)。

18	18	11	11	19	19
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
良い関係性ができない仕組み	思い先攻も大切ではあるが、計画的・戦略的に仕組みをつくってから実行することも大切	メンバー間の活動の方向性のズレ	方向性が一致しないことによる意思決定がうまくいかない、機敏な活動を阻害する。 個人的な方向性によるスタンプレーにより、違和感を感じるメンバーが離れる	人材・資金が不足し、ガバナンスが脆弱で継続が難しい団体が多い。	ただ人が集まり何かしたい、では同好会で終わる。それはそれで価値がないわけではないが、人や資金は集まらず、継続は難しい。
市民活動団体		市民活動団体		市民活動団体	
定款や設立理念、目的が適切に果たされていない	前提として市民活動団体としての理念やミッションが地域や市民にとって求められる活動であるかが重要。自分たちだけの勝手な「やりたいこと」「自分たちのための理念、目的」になっていないことは要確認。	活動のビジョンの軽視、共有不足		「理念」を明確にし、それが社会貢献に資するよう洗練させていく。	活動理念は多様であっていいが、それが社会貢献に資するよう加筆訂正しながら磨きをかけ、多くが賛同できるものに育てていく必要がある。 (追記) ・理念を決めておくと活動がブレず、継続に繋がる。 ・社会に役立つ活動でないといけな
時代や地域が変化する中改めて個々の市民活動団体が地域、市民に必要とされる活動に向かう	市民の目線に立ち、困りごとや課題がどのように顕在化しており、市民側の目線ではどのような解決や対策が求められているのかを確認する。そこに必要な解決策、活動をしっかりと団体として議論し、適切な解決策の実施に向けた仕組み、活動内容を計画立てをして実施していく。	活動のビジョンを共有する		しっかりしたガバナンス、それを支える人材、寄付・助成金等の収集能力が高い。	持続可能にするにはガバナンスの強化が必要。それには、人材・資金が不可決。 人集めでも、寄付や助成金等の資金集めにしても、恣意的活動では集まらない。普遍的価値を有する理念が必要。 (追記) 持続可能な活動にするために、後継者の育成、組織力強化、指導力が必要。

⑥理解の促進

項番	9	9	12	12	28	28
項目	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	良い活動をしているのに、あまり知られていない	広報誌を読むと素晴らしい活動をしている団体があるが、一般的に知られていない	理念・継続・自立など難しいことを考えず、市民が主体で、市民が活動できる場が多く出来ることが重要と考える（思い付きでもそれを行動に移すことが大切）	市民の発想でその市民が活動に一歩踏み出せるきっかけと1年1年の積み重ねが継続に繋がる仕組みがあると、より多くの市民活動の担い手が手を挙げ、市民活動家として成長できるのではないかと。 (追記) ・防災まち歩き	"市民活動"は行政用語?"市民活動"に参加したい人はいない。(市民活動に定義はない、市民活動という意識がない、市民活動って何?くくりがわからない)	市民が生きづらさ、課題を実感し自ら自発的にモチベーションに動かされて行くものが結果市民活動とまとめられるのだから、"市民活動"に参加しよう、推進しようという言葉を見直す必要があるのでは。
問題の立場	市民		市民/行政/団体		市民/行政/団体	
問題	PR活動に長けている人の関わりが少ない	(追記) ・ターゲットとする人材に合った情報発信ができていない	身近な地域課題・社会課題を市民活動により解決するという考えが市民にも行政にも企業にも足りないのではないかと	身近な地域課題・社会課題を市民が共有し、市民活動により解決していくという手段を学校教育や自治会活動などの中に広げていき、地域の力として根付けていけないか、可能性はあると考えているが来ていないような気がする (追記) ・身近なところで気軽に参加できる市民活動がない	行政の役割、取り組み方のスキームがニーズに合っていない	(追記) ・"市民活動"はもっと気軽なもの、必要なものという理解ができていない
理想	自分の地域で行われている活動を市民の皆さんが知っている	そもそも知られていなければ、参加したり応援したりはできないので、まずは知ってもらう事が大切	身近な地域課題・社会課題の地域(自治会や学校など)で共有し、優先順位をつけ、実行していくための場づくり	具体的には、地域の公園の自治会や地元有志が行政と連携しての管理・運営など (追記) ・多様な主体と交流する市民活動	課題・テーマありき。市民が課題に気づき、参加し、活動しやすいように行政・専門家が後方支援に徹する活動	行政に求められているのは場の提供、広報(情報提供)、法や制度などの専門知識やアドバイス、教育提供、運営資金援助とほぼ決まっている気がしています。 (追記) ・市民活動が、もっと気軽に、地域にとって必要なものということが市民の間で共通認識としてある状態。 ・上記の行政の役割はそのための対応策。

⑦事業化や事業の安定化

項番	17	17	19	19
項目	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	運営の次々世代への継承		人材・資金が不足し、ガバナンスが脆弱で継続が難しい団体が多い。	ただ人が集まり何かしたい、では同好会で終わる。それはそれで価値がないわけではないが、人や資金は集まらず、継続は難しい。
問題の立場	市民活動団体		市民活動団体	
問題	次々世代になると、人によっては、運営に積極的に参加しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的や理念を確認する機会が少なく、お膳立てされた例会に「自分に役立ちそう」と思ったときに参加しようという参加者が増えている。 ・「目標達成には皆の持てる力を出し合っで運営しなければならない」という一体感を醸成する機会が減っている。 <p>(追記) 次の世代くらいまでなら目的や思いが繋がっているが、さらに次の世代となると、その目的や思いを継続することは難しい。</p>	「理念」を明確にし、それが社会貢献に資するよう洗練させていく。	<p>活動理念は多様であっていいが、それが社会貢献に資するよう加筆訂正しながら磨きをかけ、多くが賛同できるものに育てていく必要がある。</p> <p>(追記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に役立つ活動でないといけない。 ・理念を決めておくと活動がブレず、継続に繋がる。
理想	「次々世代は自分達が運営する」という意識を持った参加者が多い市民活動	自己財源で運営することは大切ですが、社会における当該市民活動の役割を実感してもらうため、行政機関等外部との活動を企画し、設営等に関わって頂くことも必要と考えます（知っているところでは参加者の負担を考え減らしたところ、一体感を感じる機会が減ってしまったようです）。	しっかりしたガバナンス、それを支える人材、寄付・助成金等の収集能力が高い。	<p>持続可能にするにはガバナンスの強化が必要。それには、人材・資金が不可欠。</p> <p>人集めでも、寄付や助成金等の資金集めにしても、恣意的活動では集まらない。普遍的価値を有する理念が必要。</p> <p>(追記) 持続可能な活動にするために、後継者の育成、組織力強化、指導力が必要。</p>

25	25	27	27	26	26
キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
コロナ禍によって対面での活動が難しくなった。	対面で活動をおこなわなければならない市民活動団体もあるが、コロナ禍によって難しくなっている。 加えて、対面で話すことが少なくなること で団体自体の継続性や団結力が低くなっている。 また、コミュニケーションツール（ITの活用）に団体ごとの差が存在する。	インターネットの活用	コロナ禍で注目され普及し始めたオンライン会議システム、および既存のウェブサイトやSNSなどには、市民活動にかかわる大きな可能性がある。 単に情報の受発信ということだけでなく、フルタイムでの勤務者や障害を持つ人、家族の事情など様々な制約により、心ならずも排除してきた人々を活動に取り込む可能性がある。	SDGsに無関心な市民活動	「なにそれ、おいしいの？」 (追記) ・世界の共通指標なのに、分からない人が多い
市民活動団体		市民活動団体		市民活動団体	
コロナ禍によってコミュニケーションが持続的におこなえていない。	特に、活動範囲が広域で大規模の団体になればなるほど対面でのコミュニケーションがしにくい。さらに、オンライン会議ツールなどの活用も大規模になると運用が難しく、参加者のITリテラシーにも左右されることもある。	インターネット活用の事例やノウハウの提供	すでに使いこなしている団体もあるが、着手できずにいる団体は、情報不足や苦手感によりどこから手をつけていいかわからない。単発の講座などでは、タイミングやレベルが合わないなど、効果的な助けになりにくい。	目先の問題ばかりを注視し、今後の活動方針を広い視野で決められない	1. そもそもSDGsを知らない 2. SDGsを自分たちの行動指針の道標とすることができない (追記) ・狭い視点でしか考えられず、今の時代に即した活動ができていない
対面に代替されるコミュニケーションの仕組みが団体に存在すること。	感染症の蔓延が改善されればこれまで通りにコミュニケーションを取ることができるが、見通しは難しいため、代替できるコミュニケーション方法が団体ごとに存在すると良い。また、コロナ禍でも活動が円滑に進んでいるモデルケースを作っていくことで、その他の団体に広げていけると良い。 (追記) 団体ごとにオンラインなどそれぞれのコミュニケーション方法があると良い。	インターネット活用により団体を活性化し、より多くの人に届く活動を展開する	市役所から「市民活動に特化したインターネット活用相談」を提供してはいかがか。団体のこれまでの活動やミッションと、直近の地域と社会の状況を照らし合わせて見直す「棚卸し」と、その内容に合わせたオンライン活用の方法についての「提案」ができれば、団体にとっては大きなサポートになり得る。 (追記) 寄附を集めることも大事である（クラウドファンディングやChange.orgなどのプラットフォームも出来てきている）。	SDGsを意識したミッションを掲げる市民活動	(追記) ・ワールドワイドな指標で、自分たちの活動がどうあるべきか考えることができる市民活動 ・時代に即した取組ができる市民活動

⑧資金の調達

項番	21	21	22	22	23	23
項目	キーワード	意見	キーワード	意見	キーワード	意見
現状	行政の目的とその目的を実現する手段が目的化してしまうことにより、本来の活動理念から外れることがある	例えばある文化活動の魅力を高める事業をする場合、その事業が成功するために努力していくうちに、その事業の採算や参加者の好みに迎合して、本来の目的の実現から離れてしまうことがある。	市民活動及びさいたま市との協働事業を実施する上でのより多くの各種収入を確保するノウハウなどを知らないでいる事業者が多い。		事業収入がなく、助成金・補助金が得られないと活動が困難になる市民活動	
問題の立場	市民活動団体／行政		市民活動団体／行政		市民活動団体	
問題	活動に必要な自主財源不足	例えば行政の支援だけをあてにしている、支援が途切れれば、事業ができなくなっては真の市民活動とはならない (追記) 行政の助成金頼りの市民活動団体も多い。助成金が無くなったら事業ができなくなるのは好ましくない。	会費収入等以外の公的な各種収入をより多く獲得できない。	持続可能で豊かな地域社会の構築に役立った内容の市民活動が、会費収入等以外にも補助金や支援金等の公的な収入が獲得できるにも関わらず、そのノウハウなどを知らないため獲得ができず、事業断念または規模を縮小せざるを得ない。	事業収入を得るための情報を知らない	1. 安価な労働力とされている（使う方も使われる方も） 2. 市民活動は収入を得てはいけないと思っている 3. 収入を得るための情報を収集できないまたは収集しようとしていない
理想	異なる種類の活動団体が地域コミュニティを形成すること	現在活発な活動を実践している団体が多いが、異なる活動領域の交流、情報の流れがなく、地域内での連携が取れるシステム作りがあるとよい（行政の関与が必要） (追記) 異なる集団・団体同士で意見交流をする場が少ない。違う分野・業種でお互いが活用できると団体活動全体の活性化になる。	会費収入等以外でも補助金や支援金等の公的な収入の獲得ノウハウを、獲得している市民活動団体と市が協働で、希望する市民活動団体にそのノウハウを教授する。	文化芸術等の社会教育活動、社会・福祉活動、青少年健全育成活動、防火・防災、交通安全、自治会等の地域社会活動など有益かつ持続可能で、豊かな地域社会の構築に役立つ内容の市民活動を支えるための各種収入の獲得を優れた方法で行い、運営している市民活動団体と市が協働で、希望する市民活動団体にそのノウハウを教授する。	事業収入を継続して得られる市民活動	